



学校だより

平成30年 4月27日
練馬区立田柄第二小学校
校長 谷田 弘子

HP <http://www.tagara2-e.nerima-ky.ed.jp> e-mail info@tagara2-e.nerima-ky.ed.jp

教育目標:元気な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.483

チョコレート工場の秘密

校長 谷田 弘子

つつじの美しい季節となりました。田柄通りは、さまざまな種類のつつじが競うように咲き誇っています。平成30年度の一学期が始まって約一ヶ月がたちました。児童は新しい学級や先生に慣れ、落ち着いた学校生活を送っています。

さて、今月は映画にもなった『チョコレート工場の秘密』という本を紹介します。ヒットした映画のタイトルは「チャーリーとチョコレート工場」です。映画館で見た方もいらっしゃるのではないのでしょうか。この本は、対象としている年齢は小学生くらいかもしれませんが、実はどの年齢の人が読んでもとてもおもしろい内容なのです。

あらすじはこうです。主人公のチャーリーが住んでいる街にチョコレート工場があります。世界一おいしいといわれるウォンカのチョコレート。その世界一広大なウォンカのチョコレート工場ですが、働く人の姿を誰も見たことがないという謎の工場なのです。そこへ、社長のウォンカが子供たちを五人だけ招待するという「金色の招待状の入ったチョコレート」を作ったからさあたいへん！招待状を手に入れるためのドタバタや招待された工場での出来事がとても不思議でワクワクする表現になっています。発想の豊かさと展開の小気味よさは誰もがすかっとする気持ちになります。それから、翻訳者の柳瀬さんという方のユーモア溢れる訳し方や登場人物の名前のつけ方に思わず吹きだしそうになります。

一部を紹介すると、チャーリーを除く、みごと金色の招待状を手に入れた子供たちのわがまま放題の姿は、にくらしくなるほどリアルに表現されており、招待されて子供たちが工場で自分勝手に行動し、とんでもないはめにあう姿や親の身勝手な行動が次々に登場し

ます。その中で、実はチョコレート工場で働くウンパルンパという人間たちが歌う歌が、またみごとにそのわがままぶりを表現しているのです。

この本を翻訳した柳瀬さんは、「人間は一人前の大人になったつもりでいても、必ずどこかにチャーリー君と同じくらいの気持ちが残っているものです。そういう気持ちや心をほんのちょっぴり持ち合わせていれば、この作品は面白い、本当に面白く読めると断言します。」と言っています。それともう一つ、工場の中でわが子がチョコレートの川に落ち、たいへんなことになっているのに、そのお父さんが、「わしは飛び込むわけにはいかん、一番高いスーツを着てきたんだ！」というシーンがありますが、大人の体裁や地位を優先している姿が浮き彫りなる場面も出てきます。こうした場面を通した風刺もあり、奇想天外な空想力の中に現実的な目をもった小気味いい展開に学ぶことも多いのではないかと思います。この本を読んで、改めて主人公チャーリーの本当に子供らしい育ちをうれしく感じました。そして一生懸命生きることの素晴らしさもたくさん表現されており、読んで良かったと感じる本です。田二小の図書室にも置いてあります。

4月23日から5月12日までは、「こども読書週間」です。区内の図書館では、さまざまなイベントが行われ、楽しい本やおすすめの本の紹介をしているようです。本校の図書室、開放図書館にも、多くのおすすめの本が並んでいます。ぜひ、この機会に、親子でたくさんの本に触れ、新たな感動をえたり新しい生き方を学んだりしてほしいと願っています。

※「チョコレート工場の秘密」 ロアルド・ダール作